

入院しているお子さんへのサポート

お子さんが入院すると、慣れない環境で見慣れないたくさんの人たちに囲まれ、初めての検査や処置などを経験するため、「なぜ?」「これから何が起こるんだろう?」などの思いを抱き、不安な気持ちでいっぱいになっています。お子さんの不安や精神的ストレスを最小限にし、お子さんが治療に主体的に向き合えるようになるためには、ご家族と医療スタッフによる支援が必要です。病院ごとにお子さんに関わるスタッフは異なりますが、医師や看護師、薬剤師、心理士、保育士、学校教諭、チャイルド・ライフ・スペシャリスト（CLS）や子ども療養支援士（CCS）、ホスピタル・プレイ・スペシャリスト（HPS）などの専門職があり、お子さんとご家族の支援にチームで取り組んでいます。お子さんの様子で気になることがあれば、医療スタッフに相談しましょう。

【病気や治療の説明について】

お子さんが病気になった時、病気や治療についてどのように伝えたら良いか悩むご家族は少なくありません。怖がらせないように事実とは異なる情報を伝えることは、ご家族や医療スタッフとの信頼関係にも影響してきます。

子どもが自分の病気や治療について理解することは、主体的に治療に臨めることに繋がります。その際、大人と同じ説明ではなく、お子さんの発達段階や年齢に合った言葉や手段をとること、そして、お子さんの疑問や不安に寄り添っていくことが大切です。

お子さんに病気のことを伝える前に、ご家族の心の準備も必要かと思います。まずは、ご家族がお子さんの病気や治療について疑問思うことを解決していきましょう。また、お子さんに病気や治療について説明した後も、不安に思っていることや疑問について継続的に対話をしていくことが必要です。お子さんによっては言葉で伝えることが困難な場合や、ご家族に心配をかけないようにご家族ではない人に伝える場合もあります。お子さんの年齢や性格を考慮し、お子さんへの伝え方や、その後の支援についてご家族と医療スタッフと相談した上で、落ち着いた環境でお子さんに伝えましょう。

お子さんが病気や治療を正しく知ることで、内服や感染予防の必要性について理解し、対処できるようになります。何より、抱えている不安や思いを周囲の人に伝えやすくなり、必要な支援が届きやすくなります。お子さんが1人で悩みを抱えることなく入院生活や退院後の生活を送れるよう、お子さんの成長にあった説明の仕方や支援の在り方を医療スタッフと相談していきましょう。

【発達段階別のポイント】

㊦ 乳児

乳児期のお子さんの場合、少しでも安心して過ごせる環境を整えることがとても大切です。ご家庭での過ごし方にできる限り近い生活が送れるよう、お子さんが普段から使っているブランケットやタオル、玩具などを持参しましょう。ご家族の混乱や不安はお子さんにも伝わりやすいことが知られているため、分からないことや不安なことがあれば医療者に相談しましょう。

㊦ 幼児期

病気や治療の説明は、分かりやすい言葉を使って説明しましょう。幼児期の子どもは実際に自分で見たり、触れたりすることで理解が進むため、絵や人形などを使いながら説明すると伝わりやすいとされています。また、この年代の子どもは想像力が豊かで、病気を自分がしたことの罰と捉えることもあります。お子さんや家族の誰のせいでもないことを伝えながら、お子さんの言動を注意深く見守り、誤解があった場合はその都度正しい情報を伝えましょう。

㊦ 小学生

小学生になると、数や量、長さや時間の概念の理解が進み、具体的なことに関して論理的に考えることができるようになるため、病気や治療についてより詳しく理解できるようになります。自分と他人との違いを理解し、他の人から見るとどう見えるのかを気にするようになり、脱毛などのボディイメージが変わることに対しても不安を持ちやすいとされています。お子さんが知りたいと思っていること、不安を感じていることを聞きながら、治療の目的や予定など、説明を加えていくことも必要になってきます。

また、学校生活や友達から切り離されることや、友達と違うことがストレスとなりやすい時期でもあります。お子さんの思いを確認しながら、学校との情報共有や友達との繋がりを支えていきましょう。

㊦ 中学生～高校生、18歳以上のお子さん

中学生以上の子どもは抽象的なことに関しても理解が進み、大人と同じような思考ができるようになります。同時に、自己を確立していく時期でもあるため、周りの大人に頼らざるを得ない状況になることや、ボディイメージの変容はストレスとなりやすいとされています。病気や治療に関しては、お子さんの思いや希望を確認しながら、お子さんが理解できるように十分に説明しましょう。その際、インターネット上の情報は正しい情報ばかりとは限らないこと、調べたことで心配や不安になった時には誰かに相談してほしいことを伝えておくことも大切です。

病気そのものに対する不安だけではなく、学校や友達との関係、進路や就職に関する悩みを持ちやすい年代です。お子さんが抱えている思いや意思を尊重し、ご家族以外の支援者やピアサポートの力も借りながら支えていきましょう。